

---

# 人形アリス

神童サーガ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

人形アリス

### 【NZコード】

N4470F

### 【作者名】

神童サーガ

### 【あらすじ】

掃除をしてたら人形が！？掃除が出来ない少年に人形がすることとは？

「くそ～片付かない・・・」

少年は、足の踏み場の無い散らかした部屋に佇んでる。  
どうやら少年は、片付けをしてるようだ。  
だけど、三時間も経つが綺麗になる見込みは無い。

「幼稚園の時から先生に、 “片付けが得意ではありませんでしたね  
”って言われてたな」

片付けてるはずなのに、最初よりも汚れてる。  
少年は、片手を顔に当てる溜め息をする。

“瑞希くんは片付けてくれるのは嬉しいですが面倒”ことが増える  
ので止めてください”って・・・優しい口調なのに全てを否定され  
た感じだった

過去を思い出しネガティブになる少年、瑞希

「あれ・・・人形？・・・カズサのか？」

妹、カズサのかと思った瑞希。  
カズサは、小学生一年生だ。ついでにいうと瑞希は、中学一年生  
だ。

「ん~?」

指先で、人形の襟元を持ち上げる。  
リ力ちゃん人形みたいで可愛い。  
水色の瞳で茶髪のショートヘアで、外国の人形みたいだった。  
服装は、不思議の国のアリスのエプロンだった。

「よく出来てんなー」

リアル過ぎて怖かつた。  
息をしてるようにも見える。

「（可愛いなあ・・・って俺危ない奴じゃねーか！）」

変なことを考えた途端に、人形が目を細めた気がした。

「・・・気のせいか？」

田をゴシゴシと擦つて人形をもう一度見ると、何とも無い人形がぶら下がっているだけだった。

「あ、片付けしなきゃ・・・」

人形を、腰までの高さしかないタンスの上に置いた。そして、瑞希は一息いれるために居間に向かった。

「・・・」

ガターンッと扉は静かに閉まった時、誰もいない部屋に物音がした。

「んー・・・疲れた」

静かな部屋に冷たい声が響いた。

声を出したものは、凝った体をほぐすために準備体操をしている。

「な・・・なんだお前！？」

「ん？」

部屋に帰つて来た瑞希は、絶対に動かないと思つてたモノが準備体操をしてたのに、驚きが隠せない。

「・・・なんだよ」

「あ～。バレちゃった」

人形の声に止まつてしまふ瑞希。

「私はアリス。見た通り人形よ」

相変わらずの冷たい声に驚くが、それ以上に名前も驚いた。  
しかも、手の平サイズなので踏んでしまいそうだ。

「せつと付けてよ・・・私を踏むの？」

「あ、はい・・・」

瑞希は、なぜか敬語で言った。そして、『//袋を持ちながら片付けを開した。

「なんで片付かないの?」

「うう・・・俺だって分らないよ」

やっぽり片付く見込みは無い。

「取り敢えず、大きい荷物を空いてる部屋に纏めたら?」

「ああ、そうする」

タンスなどのデカい荷物を置きに行つた。  
残つたのは、ゴミとかだつた。

「私をゴミと一緒にしないでよーーー！」

「悪い・・・置く場所が・・・」

思わずゴミ袋に入れそつになつてしまつた。

瑞希は、唸つてから、どうすれば良いか?と聞いた。

「瑞希の着てる服のポケットにでも入れてよーーー！」

「分った……って名前なんで知つてんだ?」

すると、アリスは、なんだそれか、と言いながらも答えた。

「自分で名前呼んでたじやん」

せうだつたけ?と考えたが忘れてしまつてた瑞希。瑞希は、ワイシャツのポケットにアリスを入れた。両手をポケットから、ダランと垂らした。

「取り敢えず、分別しなさい」

「うん~・・・よしひ・・・これは・・・ひとつ

きちんと片付けが進んでる。

アリスの助言のおかげで部屋はピカピカになつた。そして、荷物も運んだ。

「たいぶ綺麗になつたじゃない

「ああ・・・アリスのおかげだ」

「な、な、わ、わ、お紅茶を持つてきなさい」

我が儘に言つたアリスに、引きつる瑞希。  
仕方なく紅茶を持って来た。

「人形が飲めるのか？」

「悪い？ 好きなのよ」

瑞希は、アリスの言葉に赤くなつたが、アリスは気が付いて無く、ズーツと紅茶を飲んでる。

「何、赤くなつてるの？」

「あーーーいや・・・何でもねーーー！」

恥ずかしくなり顔を背ける瑞希。

「私を、ここに住まわせなさいーーー！」

「えーー? ・・・・まあ良いナゾ」

バレないようこ暮らさなきゃいけないのか。

「瑞希……」

「な・・・こ・・・・つ・・・」

アリスは、いつの間にか瑞希の肩に座つていって、話し掛けた。肩の方を向いた瞬間に、唇に小さくて温かい感触があった。

アリスは、ひょこりとテーブルに移動した。

「キス・・・?」

「庄まわさせてくれる御礼よ」

まだ残る温かい感触を押さえながら言った。

「これから俺の生活がいつもだー!」

(後書き)

テーマは、つむぎの恋です。色々な意味で・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4470f/>

---

人形アリス

2011年1月16日09時35分発行